



## イギリス訪問を終えて

法学部法律学科 4 回生

小宮義高

今回のイギリス訪問では主に二つのことを行った。一つ目はケント大学における国際学会 **Conflict Research Society conference** において、有志連合からの早期撤退と民意の関係に関する研究発表をしたこと、二つ目は神戸大学法学部研究科のダブル・ディグリーシステムの提携校であるエセックス大学を表敬訪問したことである。エセックス大学では構内を見学させていただき、政治学部の先生方とランチを食べながら、また、パブでの歓談を含め、長い時間話を伺った。

今回のイギリス訪問では多くのことを得ることができた。研究発表に関しては、初めて学会と呼ばれるもので発表させていただき、自分の研究や自分の発表に対して少し自信をつけることができた。次の機会に向け、研究をより一層頑張っていきたいと思う。

また、他の方の発表を見たり、他の国の方と話をさせていただいたことによって知見を広げることができた。エセックス大学への訪問に関しては、私は来年度大学院に進学し、ダブル・ディグリーシステムを活用してエセックス大学へ留学したいと考えている。そのため、実際にエセックス大学を訪問できたことは意義深く、校舎や寮を見て、勉強するのに非常に適した環境であると感じた。また、私が留学に関して不安に感じていたことをエセックス大学の先生や今年エセックス大学に留学している先輩に質問することで私の不安を少し解消できたとともに、さらにこの大学で勉強をしたいという気持ちが強まり、留学へのモチベーションを上げることができた。

一方、反省点も残ったと感じる。研究発表に関しては、もっと練習していたら、もう少し落ち着いて発表できたと思う。発表前はこの発表の仕方で大丈夫であろうと思っていた箇所も、もっと分かりやすい説明ができたのではないかと感じた。スライドを簡略化したり、枚数を増やしたりするなどしてもう少し分かりやすくする工夫が必要だった。また、先生たちの会話を横で聞いていて、内容が分かっても会話に入り込めない、そもそも内容自体を理解できないなどコミュニケーションや英語力の面での反省点もあった。今回浮き彫りになった弱点をどのように直せるのかを考え、すぐに修正できる点はすぐに修正し、すぐには修正できない点は、地道にはあるものの、しっかり修正して、次の機会があるならば、そこで活かせるように努めていきたいと思う。

最後に、また学部生である私に支援金を出していただき、このように大きなチャンスを提供していただいた六甲台講演会のみなさま、神戸大学法学部に心から感謝申し上げます。